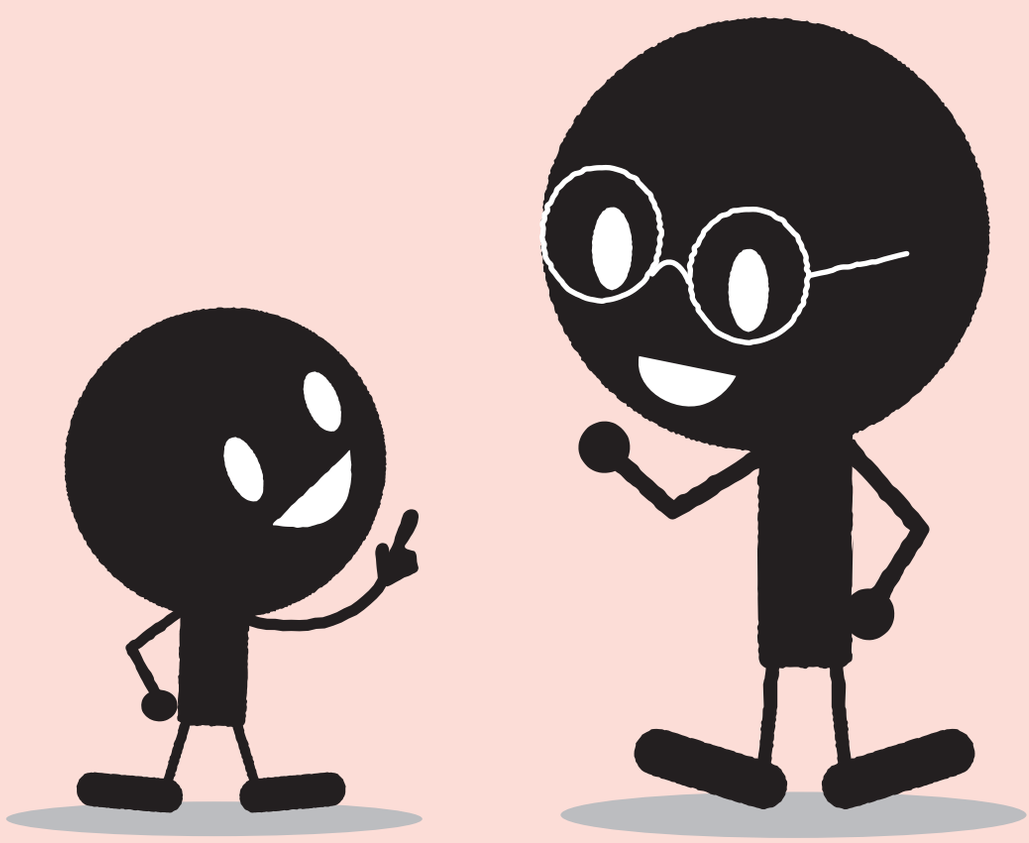
キャリア教育リーフレットシリーズ 特別編

職業に関する体験活動特別編２

改めて、職業に関する体験活動の意義を考える ②

～キャリア教育に関する総合的研究から～



文部科学省　国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター　初版発行 令和７年３月

改めて、職業に関する体験活動の意義を考える

国立教育政策研究所では、およそ７年に１度、公立の小学校・中学校・高等学校を対象に、キャリア教育に関する総合的な調査を行い、キャリア教育の現状と課題に焦点を当てて分析し、その成果を報告書として取りまとめています。令和元年に実施した調査の結果から、職業に関する体験活動の効果や、中学校における職場体験活動の意義について確認します。

●職業に関する体験活動の効果として考えられるもの

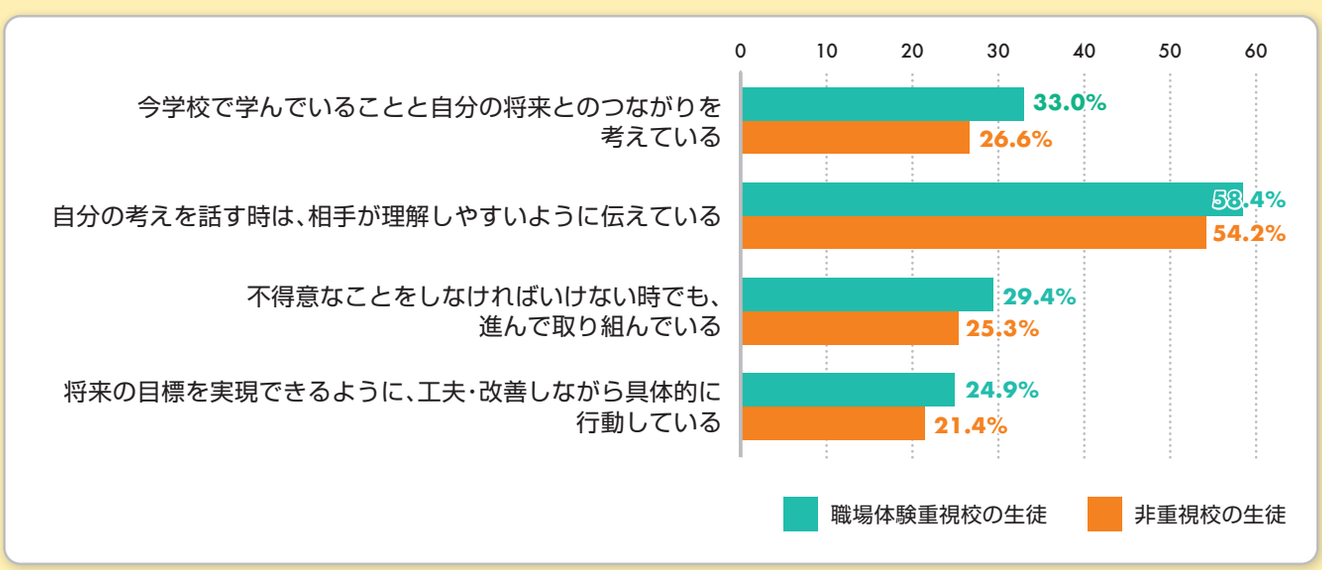
小　学　校	職業に関する体験活動の実施は児童の学習意欲の向上に影響していると考えられる。
中　学　校	充実した事前指導・事後指導を伴う職場体験活動は、生徒のキャリア発達を促す可能性がある。
高　等　学　校	全体計画で「就業体験活動の充実や事前指導・事後指導」を重視した学校では、生徒の「キャリアプランニング能力」が高い。

充実した事前指導・事後指導を伴う職場体験活動の重要性

キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書（令和３年10月）では、キャリア教育の計画を立てる上で学校が重視した事柄として、職場体験活動等の充実と事前指導・事後指導を重視すると回答した学校（職場体験重視校）と、そのどちらも重視していないと回答した学校（非重視校）の回答状況を比較・分析しています。

「職場体験重視校」と「非重視校」それぞれの学校に在籍する生徒が「基礎的・汎用的能力」の自己評価を行った結果、12項目中11項目において、「職場体験重視校」の生徒の方が、自身の日常生活や行動について積極的に評価しました。

※グラフは、12項目中、差が大きい上位4項目を抜粋して作成。



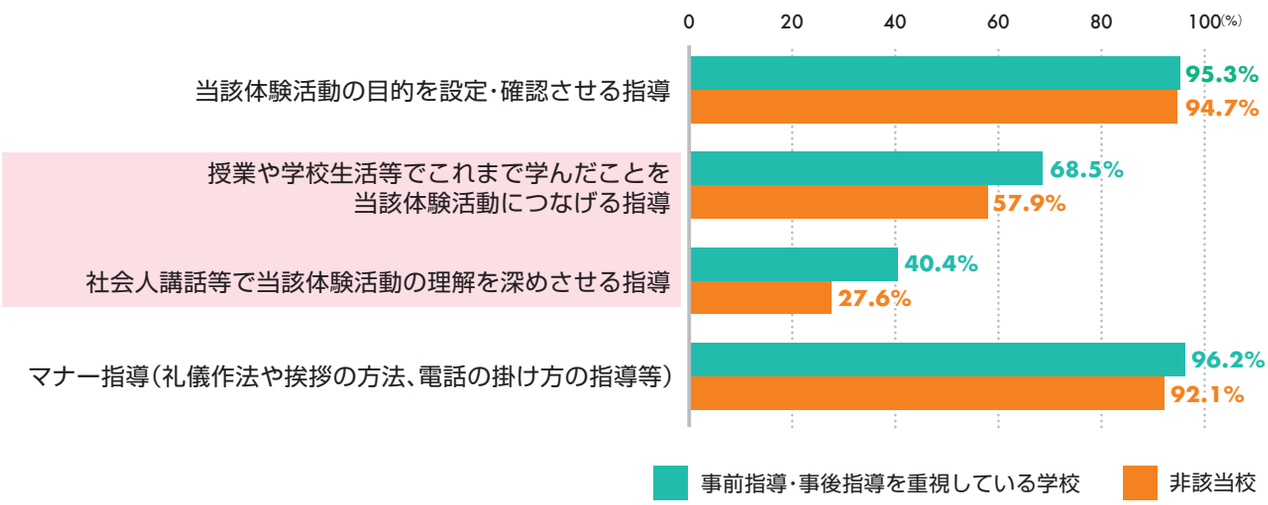
特に、「今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えている」ことなど、キャリアプランニングに関わる生徒の意識や行動に差異が見られました。学校がキャリア教育の計画を立てる上で、職場体験活動等の充実と事前指導・事後指導を重視することは、生徒の「基礎的・汎用的能力」を育成し、生徒のキャリア発達を促すことにつながると推察されます。

体験活動の事前指導・事後指導を重視している学校が実際に取り組んでいる内容

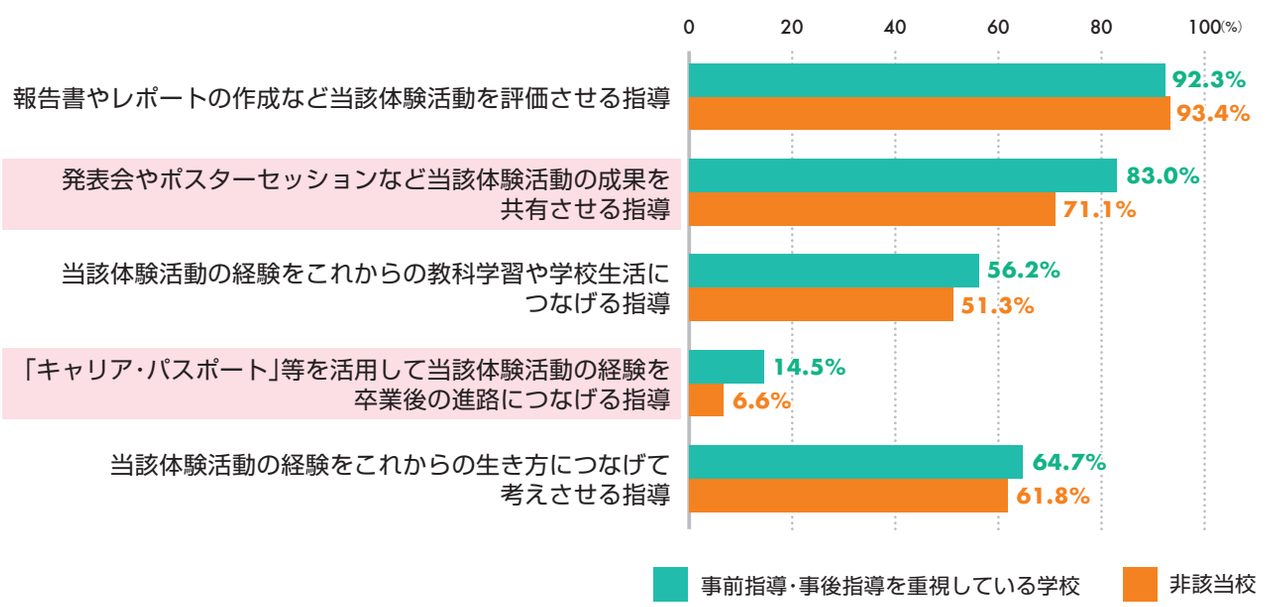
次のグラフは、体験活動の事前指導・事後指導の充実を重視した計画を立てている学校と、そうでない学校の体験活動の事前指導及び事後指導の内容を比較したものです。

事前指導・事後指導の充実を重視した計画を立てている学校は、実際の指導場面においても日々の授業や学校生活と体験活動との結び付きを意識した事前指導を行っていることが分かります。また、事後指導では、職場体験活動の効果を高めるべく、他者に向けた表現機会や共有機会を企図していると考えられます。

事前指導の内容



事後指導の内容



※１　P３のグラフの赤マーカーで示した項目は、分析の結果、有意差があると考えられるもの。

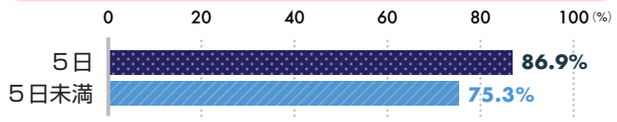
※２　P２・３のグラフは、「キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書」（令和3年10月）より引用。
https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_SogotekiKenkyu_2.html

コラム　兵庫県の職場体験活動「トライやる・ウィーク」

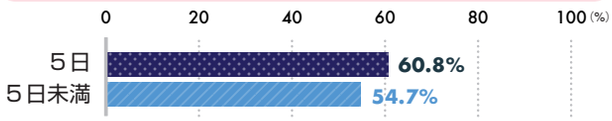
次のグラフは、兵庫県の職場体験活動「トライやる・ウィーク」を経験した生徒へのアンケート結果をまとめたものです。兵庫県では原則全ての公立中学校で５日間の職場体験活動を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症の社会状況を踏まえた対応として、一部の学校で５日間の体験ができない状況が生じました。そのことにより、５日間実施した約73%の学校と５日未満で実施した学校の生徒の意識の差を調べることが可能となり、その結果をまとめたのが次のグラフとなります（兵庫県提供資料より一部を掲載）。

（「トライやる・ウィーク」を振り返って感じたこと）

② 自分にとって、「トライやる・ウィーク」の一週間は充実していた。

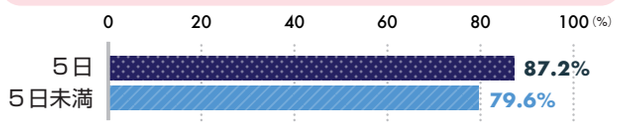


③「トライやる・ウィーク」の活動で、自分の考えや行動に影響があった。

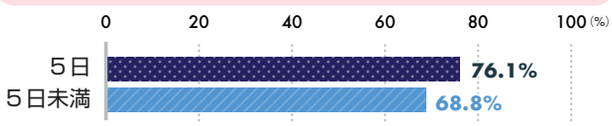


（「トライやる・ウィーク」期間中に感じたこと）

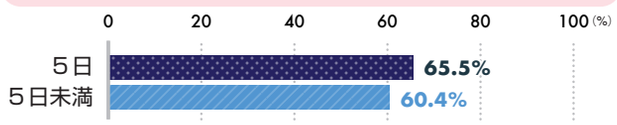
② 働くことの大切さ、厳しさ、楽しさ



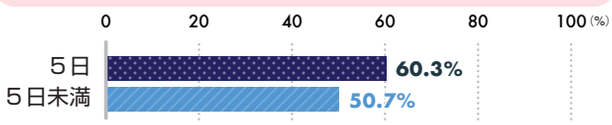
④ コミュニケーションの大切さ



⑦ 社会のルールやマナーの大切さ



⑨ 人のために役に立つうれしさ



いずれの項目でも、５日間実施した学校の生徒の方が、職場体験活動の価値をより実感していることが分かります。

中学校学習指導要領解説特別活動編では、第3章第3節の２の（5）の②のアにおいて、「（前略）また職場体験活動については，その教育的な意義が一層深まるとともに，高い教育効果が期待されることなどから，学校の実態や生徒の発達の段階を考慮しつつ一定期間（例えば１週間（５日間）程度）にわたって行われることが望まれる。」と示されています。職場体験活動では、ある職業や仕事を暫定的な窓口としながら実社会の現実に迫ることが中心的な課題となるため、学校の実態や生徒の発達の段階を考慮した効果的な活動とするための指導の改善・充実が求められます。

～「トライやる」の火を消さない～

ある兵庫県の中学校では、令和２年度に５日間の「トライやる・ウィーク」が実施できない状況となりましたが、事業所の方による講演会を開催するなど、できる範囲での職業に関する体験活動を企画・実施しました。そこには、「地元の方々とつないできた「トライやる」の火を消さない」という学校の思いがありました。令和３年度からは５日間の活動を再開していますが、実施できなかった時期を経験したからこそ、改めて生徒が今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考える機会になるよう、より工夫した事前指導・事後指導を行っています。

文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research
NIER

〈編集・発行〉生徒指導・進路指導研究センター　令和7年3月
TEL：03-6733-6882
URL：https://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div09-shido.html